八代市立第一中学校だより　　発行責任者　校長　髙嶋　宏幸

一中生徒の最善最高の自覚と実践

NO2(R5.5.18)

〇教頭より　　どんなに社会が変化しても

　はじめまして、教頭の一司です。私は本校の卒業生で、1980 年(昭和 55) 4 月から 1983 年(昭和 58) 3 月まで一中で過ごしました。この３年間を振り返ると、様々なことがありましたが、頭に浮かぶ１つの大きなキーワードが「変化」です。

　中学１年生当時、一中は広々としたイメージがありました。それは、現在の松江通りまで一中の運動場があり、現在の市立図書館と松浜軒駐車場は「城跡コート」と呼ばれるバレーボールコートが４面もしくはハンドボールコートが３面とれる広い体育施設でした。これに加え、体育館も２階に観客席がある今より一回り大きいもの、学校横の月極駐車場もテニスコートとして使用させていただいていました。

　中学２年生から、体育館の建て替え、そして松江通りと市立図書館の建設が始まり、城跡コートや学校横のテニスコートが一中の施設ではないことを知り軽くショックを受けるとともに、狭くなっていく運動場に少し寂しさを感じたものでした。

　あれから 40 年が経ち、弓道場の設置や技術棟の解体等を除き、学校の施設に大きな変化はありません。一方で、子どもたちを取り巻く社会は大きく変化しました。情報化が進み便利になりましたが、ネット犯罪やＳＮＳをめぐるトラブルなど新たな課題が増えました。社会構造の変化に伴って家庭のあり方も多様化し、隣人間のつながりが薄れていくなか、互いに支え合う社会づくりの必要性が増してきました。

　どんなに社会が変化しても、「子どもたちにとって学校は安心して笑顔で過ごせる場であるべきだ」と強く感じます。そのためにも、子どもたちと先生、保護者、地域のつながり（信頼関係）をしっかりと築いていきたい、子どもたちが夢に向かって励んでいける環境づくりをしていきたいという想いを胸に取り組んでいきますので、今後もご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

☆最善最高☆～生徒朝会～

☆最善最高☆～授業参観～